

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度（年度末実績）				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
①自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	①自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎本人の特性に応じた意思決定を支援するため、関係機関と連携・協力し、住みなれた地域で社会参加ができるよう包括的・多層的な支援体制を構築する。	◎成年後見制度の利用促進「さくら市成年後見センター」を設置し無料相談会や説明会等を開催し、制度の周知啓発活動を行う。	成年後見制度の利用促進の実施状況	①個別相談会 年6回 相談件数17件 ②市民向け成年後見制度普及啓発講座開催 参加者25名 ③市長申立2件	○	市民向け講座の開催により、制度をわかりやすく理解していただくことができた。個別相談会の参加に繋げることができた。	成年後見制度について継続して周知啓発を行う。制度利用を検討している親族から問い合わせが多いためサポート体制を整える。	ひきつづき、周知啓発を行い、問い合わせに対するサポート体制を整えましょう。	個別相談を継続するとともに、必要な情報を取得できるような周知活動を行います。
									良好	今後も取り組みを継続します。
									今後増々需要がでてくると思います。	今後身寄りがいない単身高齢者が増加すると思われますので、制度の周知活動と支援体制整備に取り組みます。
									市民向けだけでなく、専門職向けはなくてよいのでしょうか？	高齢者を支援する専門職の方を対象とした講座を検討します。
									成年後見制度についての理解を深めるとい意味では非常に高く評価できると思います。	成年後見制度の周知と理解を深めていただくよう事業を継続します。
									昨年度同様に相談会や啓発講座の開催を継続することで内容を周知啓発することになると思います。ただご家族が相談会を利用しやすい時間帯や曜日の検討（市のイベントの時に実施するなど）をしてはどうでしょうか。6回のうち1回でも設けることで、働いているご家族が参加できるのではないのでしょうか。成年後見制度について関係機関の方が利用する方に、具体的に説明できるようにすることも必要ではないのでしょうか。	無料相談会の開催曜日等につきまして、関係機関と検討し利用しやすいものとなるよう努めます。
									制度についてどこへ相談して良いかわからない声を聞くので今後も周知に努めてもらいたい。	広く周知を行い、必要な情報の提供に努めます。
									年6回の個別相談会がきっかけで後見制度に繋がった例もあると聞きます。個別相談会の周知を、障害の相談員や介護保険のケアマネジャーなどに今後行ってほしいと考えております。	利用者を支援する相談員やケアマネにも広く周知を行い、必要な情報の提供に努めます。
									地域包括支援センターや障害者相談支援センター等を中心に無料相談や研修を実施されており、十分評価できる。	継続して取り組んでまいります。
									個別相談会の参加に繋げることができ評価できる。	広く周知を行い、必要な情報の提供に努めます。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)			
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策
①自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	①自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎高齢者の虐待を防止するには、介護者が高齢者虐待について正しく理解することが必要であることから、市民や施設職員への普及啓発の充実を図る。	◎高齢者虐待防止の普及啓発虐待防止の普及活動として、広報での周知や地域包括支援センターと連携して市内イベントでの啓発活動を実施する。	高齢者虐待防止の普及啓発の実施状況	広報紙掲載 民生委員、児童委員に対して高齢者虐待に係る研修会を実施	○	民生委員に高齢者虐待について理解を深めていただくことができた。	高齢者と介護者を緩やかに見守ることができる地域づくりを進める。引き続き周知活動を行う。
							虐待を未然に防げるよう相談に行きやすい体制・窓口が必要だと思う	高齢者虐待の相談窓口の周知を行います。地域に高齢者虐待を理解していただき、早期発見に繋がつような体制を整えるように努めます。
							高齢者虐待防止の周知は広報などを通して行うことが出来たのではないかと思います。今後は、広い意味での予防の観点から、小中高校生などへの防止のための普及啓発活動を実施出来たら良いと思います。	
							地域全体で高齢者虐待の防止に努めているため、評価できる。	地域・医療・介護・行政が連携して高齢者と介護者を緩やかに見守ることができる地域づくりに努めます。
							民生委員に高齢者虐待について理解を深めていただくことができた評価ができる。	地域・医療・介護・行政が連携して高齢者と介護者を緩やかに見守ることができる地域づくりに努めます。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎住み慣れた地域でいきいきと暮らしていくため、地域の人々が交流できる通いの場などの居場所づくりを推進する。	◎地域における居場所づくり	●地域の通いの場の開設数 令和6年度 48 令和7年度 49 令和8年度 50 ●常設型居場所の開設数 令和6年度 3 令和7年度 3 令和8年度 3	補助金交付、サロン交流会開催、生活支援コーディネーター(SC)による運営・立上げ支援を実施 令和6年度実績 地域の通いの場開設数 53 常設型居場所の開設数 3	◎	通いの場開設数、常設型居場所の開設数がともに目標値に達しているため。	運営状況等の把握できていない団体があるため、生活支援コーディネーター(SC)を中心に情報を集め、活動の継続支援を行う。	通いの場、常設型居場所の活動継続を支援しましょう。	通いの場や豪雪型居場所が継続性をもって活動できるよう引き続き支援してまいります。
									不正受給にならないように注意しながら、継続してほしい。	活動計画や実績報告の内容に加え、生活支援コーディネーターが訪問した際の情報等も併せて活動状況を把握し、継続して支援してまいります。
									さくら市に通いの場が98か所あると聞きました。とても高く評価できると思います。	通いの場や常設型居場所の他にいきいきクラブ(老人クラブ)、いきいきスポーツ教室(高齢者スポーツ団体)を合わせると98か所となります。引き続きこれらの団体の活動支援に取り組んでまいります。
									目標値に達しているので、評価できと思う。課題と対応策で上げていた継続支援をお願いしたい。	情報が少ない団体に対しても情報把握を進め、活動支援に取り組んでまいります。
									サロン活動が充実してきたことは非常に評価できると考えます。今後は、利用者にとってより魅力的な活動内容を目指して欲しいと思います。	通いの場の設置数だけでなく、活動内容もより充実できるよう支援してまいります。
									参加者に配慮した開催場所や方法に努めており、評価できる。	継続して取り組んでまいります。
									通いの場の開設数が目標値を優に超えており、各地域住民がアクセスしやすい状況にあることがよい環境となっていると思われます。課題としてあげられた点を中心に、各々の活動をバックアップできるとよいと思われます。	近所に通いの場がない地域もまだまだ多い状態です。よりアクセスが良くなるよう立上げ支援や運営支援に取り組んでまいります。
									通いの場開設数、常設型居場所の開設数がともに目標値に達し評価できる。	継続して取り組んでまいります。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について	
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策			
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎高齢者がサロン・通いの場やいきいきクラブの活動に参加した場合にインセンティブを付与することで社会参加のきっかけとし、健康増進や介護予防、地域貢献を通じた生きがいづくりを推進する。	◎桜ささえあいポイント制度	●ポイント付与団体数 令和6年度 87 令和7年度 92 令和8年度 97 ●ポイント制度登録者数 令和6年度 1,100 令和7年度 1,150 令和8年度 1,200	生活支援コーディネーター(SC)が希望団体に対して事業内容の説明に伺い、登録申請等の支援を実施 令和6年度実績 ポイント付与団体数 105 ポイント制度登録者数 971	○	ポイント付与団体数増加し目標値を達成したが、ポイント制度登録者数は目標値に達しなかったため。	ポイント制度登録者数は目標値に増加傾向にある。R7年度は、ポイント制度登録者数の増加を目指し、より制度の周知に注力したい。「健康づくり活動」を実施するポイント付与団体は、健康増進及び介護予防を推進を実施するが、内容等の選定は団体に任せている。より効果的な内容になるように現状把握やリハビリ等専門職の介入を進め、活動の支援を図る。			
											ポイントの交換品が限られておりクオカードの様にどこでも使える商品券等は可能か
											さくら支えあいポイント制度の周知を図る。
											ポイント制はいいと思うがわかりやすく
											事業を継続していくと良いと思います。
											ポイント給付で参加団体や参加者が増えたのでしょうか？
											ポイント付与制度はとても良いアイデアだと思います。リハビリ等の専門職が介入することで、より良い内容になることを期待しています。
											ポイント制にすることで少しでも増加するきっかけとなるのは評価できると思う。利用者からも周知の協力をお願いしてもらえよう、是非利用者の意見なども取り入れ内容の充実を図ってほしい。、
									自力で参加できない方へのサポート(参加したいが免許返納した等)があると更に参加者が増えるかも		
昨年度と比べ、桜ささえあいポイントを利用する方が増え、地域のイベント等でも利用している方を見かける。広く周知されており、十分評価できる。											
ポイント付与団体数が増加したことは評価できる。引き続き登録者数が増えるよう周知をお願いします。											

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎地域の中で自立した生活が送れるよう、介護保険サービスとは別に市単独の事業を実施。	◎生活支援(福祉)サービスの推進	①給食サービス事業 ②在宅高齢者、重度障がい者等紙おむつ給付事業 ③福祉タクシー事業 ④高齢者等生活支援サービス事業 ⑤日常生活用具給付 ⑥住宅用火災警報器等購入費助成事業 ⑦緊急通報装置貸与事業 ⑧緊急情報キット給付事業	①114人 ②480人 ③367人 ④40人 ⑤1人 ⑥2人 ⑦123人 ⑧502人	◎	福祉タクシーについて市外(隣接市町)業者を利用可能としたことにより、利用者の利便性が向上し、利用率も増加した。	民生委員や福祉専門職等に広く周知を行い、情報を取得することが難しい高齢者や障がい者の方が当サービスを利用できるように働きかけを行う。今後も住み慣れた地域で生活ができるよう必要に応じてサービスの改善を進めていく。	給食サービスは味付けの問題が長続きしない方がある程度の人数いると思われるが個人の趣向を取り入れるのは可能ですか	アレルギーやご飯の固さ(おかゆ)、おかずの大きさ(刻み)等に対応していますが、個別の趣向を取り入れるのは難しい状況です。
									福祉タクシーの利用についての周知広報を継続しましょう。	引き続き、福祉タクシーの周知を行います。
									もっと時間的余裕が持てるようなタクシーがあるといいかな	タクシーの運行につきましては各業者の対応によるところです。デマンド交通と福祉タクシーの両方を上手に使っていただけよう周知に努めます。
									今後、さらに需要があると思います。	引き続き、サービスの推進に努めます。
									とても高く評価できると思います。	引き続き、サービスの推進に努めます。
									評価できる、結果が出ていると思う。	引き続き、サービスの推進に努めます。
									オムツ券の利用について利用者から使い勝手が悪いとの意見を聞いたことがあります。オムツ券を1000円×何枚というように小分けにするなどの工夫で利用者により喜ばれるサービスになるかも知れません。	利用者の意見を聞きながらより良いサービスにむけて研究を行います。
									民事協の定例会等からも分かる様に市民に広く行き届く様な工夫がされている。評価できる。	引き続き、サービスの推進に努めます。
									必要な人に支援が行き届くように今後も周知が進められるとよいと思われます。既に作成済であったら申し訳ないのですが、高齢者が活用できる支援についてまとめられたガイドブックなどがあると、自分が使える事業が一覧となってわかりやすいと思われます。また、事業を周知する側も周知に力を入れやすいと考えます。	高齢者等在宅サービスのしおりを作成し、窓口で配布しています。
									利用者の利便性が向上し、利用率が増加したことは評価できる。	引き続き、サービスの推進に努めます。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度（年度末実績）				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について		
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策				
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎難聴高齢者の早期発見・早期介入等に向け、市の状況にあわせた支援事業を実施する。	◎補聴器補助事業	難聴高齢者を支援する事業の実施状況	令和6年10月事業開始 ①補聴器購入補助金 30人 ②補聴器装用継続補助金 15人	◎	補助要件に補聴器の装用継続（トレーニング期間）を設けることで効果的な装用に繋がった。	引き続き、広く市民へ広報活動を行う。併せて医療機関や補聴器販売事業者へ周知を行う。				
											ひきつづき、周知・広報活動を継続しましょう。	引き続き、補聴器補助事業の周知に努めます。
											補聴器を使用されている方が増えてきている印象です。	引き続き、補聴器補助事業の周知に努めます。
											とても高く評価できると思います。	引き続き、補聴器補助事業の周知に努めます。
									評価できる、結果が出ていると思う。	引き続き、補聴器補助事業の周知に努めます。		
									トレーニング期間を設ける工夫で、“買った後に後悔”する失敗が予防できて非常に良いと思います。	今後も、医療機関、補聴器販売事業者と連携し、自分にあった補聴器を継続して装用してもらえるように取り組んでまいります。		
									継続したサポートによって効果的な装用に繋がっており評価できる。	今後も、医療機関、補聴器販売事業者と連携し、自分にあった補聴器を継続して装用してもらえるように取り組んでまいります。		
									広く周知を行い効果的な装用につなげてほしい。	引き続き、補聴器補助事業の周知に努めます。		

第9期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度(年度末実績)					委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎生活行為の改善、リエイブルメント(再自立)を推進するため、通所型サービス・活動C(パワーアップ教室)で身体機能が改善した高齢者が地域の通いの場等で役割を持って活躍する「循環型」の地域づくりを目指し実施している。	◎通所型サービス・活動C運動機能向上・栄養改善・口腔機能向上プログラムを提供し、自立した生活の確立を支援する。	●開催回数 令和6年度 144 令和7年度 144 令和8年度 144 ●参加延人数 令和6年度 550 令和7年度 600 令和8年度 650	地域包括支援センターやケアマネジャー等から紹介のあった事業対象者、要支援者を対象に、週1回(3ヶ月、全12回)を1クールで実施。 参加者のリエイブルメントを目指し、専門職(作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士)による運動・栄養・口腔機能評価と改善プログラムを提供。 令和6年度実績 開催回数 144(12クール実施) 参加延人数 456(参加者42名(リタイヤ4名))	○	実施回数、参加延べ人数ともに概ね目標値を達成したため。	参加者は3ヶ月間の教室で改善が見られ、個人の目標達成することができている。 教室卒業後の運動継続や社会参加・役割等の受け皿として、氏家地区の常設型通いの場において、通所型サービス・活動Cと同様の内容を、卒業生が指導する「出張パワーアップ教室」をR6.6から開始した。卒業生は喜連川地区にもいるため、今後は喜連川地区での実施も目指していく。 参加者は事業対象者が多く、要支援者が少ない。ケアマネジャーからの紹介が特に少なかったため、令和7年3月にケアマネジャー連絡協議会で事業の周知を実施したが、今後も継続して事業の周知を行い、要支援者へのアプローチをしていく。	1クール3か月で終了ではなく枠が開いていれば継続して実施も可能でよいと思います1 実施回数や参加延べ人数の推移を見守りましょう。 自立支援のためにも力をいれていくと良いと思います。 活動は動めてほしいが、利用者の交通手段は確保されているのでしょうか？ とても高く評価できると思います。ケアマネジャーに協力してもらい参加者が増えるとても素晴らしいと思います。 評価できると思う。 要支援者にかかわる専門職からの周知と市で実施する健康診断や企業の健康診断の場で、本事業を説明やチェックリストの体験を行うことで、働き盛りの年代や高齢でも元気に働いている人に早期に対策してもらうきっかけを作ってはどうか。 ケアマネジャー連絡協議会での周知がとてありがたかったです。 ケアマネとして事業対象者を担当する機会はあると卒業生はより参加しやすくなるかもしれません。 継続して事業評価を行う等、事業の適性化について検討している。一定の評価ができる。 実施回数、参加延べ人数ともに概ね目標値を達成し評価できる。	参加者の多くが3か月間で改善見られており、その後の体力維持については、担当者会議を行って、地域サロンや体操教室等を紹介し、ご自身で介護予防に取り組めるように支援しています。 継続して取り組んでまいります。 継続して取り組んでまいります。 全員送迎付きです。 参加者の多くが、免許返納しており、送迎付きの体操教室はとても喜ばれています。 現在、地域包括支援センターより対象者選定を行っています。ケアマネジャーからの紹介も受けています。要支援の方でも参加できる内容の為、ケアマネジャー向けにも事業説明し、対象者紹介を促していきます。 ご提案ありがとうございます。 要支援者への周知は、引き続き専門職から行っていきます。 本事業は、生活行為の困りごとがある方を対象としており、元気に活動されている方は一般介護予防教室を案内しています。しかし、本事業を早期に周知することは、困った時の選択肢のひとつとなる為、必要かと考えます。 ケアマネジャー連絡協議会にて、事業説明をさせていただいたおかげで、ケアマネジャーから数名ご紹介いただきました。なかなかパワーアップ教室対象者を担当する機会は多くないと思いますが、是非、ご家族やご友人等にご紹介いただけると幸いです。 令和7年度は、「どこでも出張パワーアップ教室」と題して、喜連川地区のサロンに「出張パワーアップ教室」を派遣する事業を行う予定です。卒業生の活躍の場としても活用していきます。 継続して取り組んでまいります。 継続して取り組んでまいります。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について	
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策			
①自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	①自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	◎介護予防を継続的に行っていくため、健康体操等の普及を進めるとともに、必要に応じて専門職を派遣し適切な指導を行うなど、地域の介護予防の取組を支援・強化している。 ◎リハビリテーション専門職が関与する仕組みづくりが必要。	◎水中ゆうゆうウォーキング 水中運動教室として、腰や膝に負担の少ない水中運動の機会を提供し、介護予防の普及啓発を図る。	●開催回数 令和6年度 12 令和7年度 12 令和8年度 12 ●参加延人数 令和6年度 155 令和7年度 160 令和8年度 165	道具を使用した水中ウォーキングやアクアビクスを中心に実施。 令和6年度実績 開催回数 11(夏6回、冬5回(降雪のため1回中止) 参加延人数 192	◎	実施回数は悪天による中止で1回少ないが、参加延べ人数は目標値を達成したため。	参加者はリピーターが多く、新規参加者が少ない傾向にある。腰や膝に負担の少ない運動を実施できるため、ケアマネジャー等への事業周知を行っていく。 事業の効果については「足腰の痛みが軽減した」「体力がついた」等参加者の主観的評価で行っていたため、教室開始前後で体力測定を実施する等、客観的評価も実施していく。			
								ひきつづき、事業周知を図りましょう。			継続して取り組んでまいります。
								良好			継続して取り組んでまいります。
								自立支援のためにも力をいれていくと良いと思います。			継続して取り組んでまいります。
								水中運動は怪我のリスクが少なくとても効果的だと思うが、参加ハードルが高く、利用者数の多い他の事業を強化したほうが良いと思う(経費が安ければ良いとおもうが・・・)。			水中運動は安全面や運動効果の面で魅力があり、一定の支持をいただいております。一方で、参加のハードルが高いという指摘や、費用面での課題も認識しております。各事業の効果や利用状況、運営費用などを総合的に評価しながら、今後の施策の充実を図ってまいります。
								良い試みだと思います。			継続して取り組んでまいります。
								評価できると思う。 参加者の感想が継続することで広がるのでは。			継続して取り組んでまいります。
								水中ウォーキングの存在を知りませんでした。周知をより一層強化して欲しいです。			広報とホームページでの周知だけでなく、サロンでの周知等、周知方法のさらなる強化に努めます。
								事業のニーズが明らかであり十分評価できる。			継続して取り組んでまいります。
								参加人数が目標値を達成し評価できる。			継続して取り組んでまいります。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)			
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策
① 自立支援・介護予防・重度化防止	① 自立支援・介護予防・重度化防止	◎介護予防を継続的に行っていくため、健康体操等の普及を進めるとともに、必要に応じて専門職を派遣し適切な指導を行うなど、地域の介護予防の取組を支援・強化している。 ◎リハビリテーション専門職が関与する仕組みづくりが必要。	◎あおぞら元氣塾運動やレクリエーション活動などを通して、自ら積極的に健康維持・介護予防に取り組むことに対して支援する。	●開催回数 令和6年度 27 令和7年度 27 令和8年度 27 ●参加延人数 令和6年度 425 令和7年度 430 令和8年度 435	7月から3月まで開催し、月ごとに「転倒予防」等テーマを設け、ストレッチ、筋力トレーニング、脳トレ、リズム体操等、多様な運動を運動指導士による指導を実施したほか、歯科衛生士によるオーラルフレイル予防の講話、管理栄養士によるフレイル予防の講話も行った。	◎	実施回数は悪天による中止で1回少ないが、参加延べ人数は目標値を達成したため。	参加者には教室を通して体力の改善や運動する習慣がついた等、健康増進・介護予防の効果が現れており、今後も継続して実施し運動習慣の継続に努めたいと考えているが、参加申込者は48名だったのに対し、1回あたりの参加者は平均20名程度と低い水準だった。参加者数増加を目指し、事業を実施していく。
					令和6年度実績 開催回数 26(降雪のため1回中止) 参加延人数 523			
① 自立支援・介護予防・重度化防止	① 自立支援・介護予防・重度化防止	◎介護予防を継続的に行っていくため、健康体操等の普及を進めるとともに、必要に応じて専門職を派遣し適切な指導を行うなど、地域の介護予防の取組を支援・強化している。 ◎リハビリテーション専門職が関与する仕組みづくりが必要。	◎高齢者教室 地区の老人クラブなどの要請を受け出前講座を開催することで、参加者が介護予防に関する効果的な取組についての手法等を学ぶことを支援する。	●開催回数 令和6年度 35 令和7年度 35 令和8年度 35 ●参加延人数 令和6年度 560 令和7年度 560 令和8年度 560	サロン・通いの場等から依頼を受け、体操・運動、栄養・食事、認知症・脳トレ、聴覚等について保健師・管理栄養士・理学療法士、歯科衛生士が講話を実施。 より多くのサロン・通いの場へ教室利用を促すため、高齢者教室講座メニューを作成し、生活支援コーディネーター(SC)からサロン・通いの場へ個別に案内を行った。	○	実施回数は目標値の68%と低かったが、参加延べ人数は目標値を概ね達成した。	依頼に対して専門職が対応することができたが、高齢者教室講座メニューの提供が年度途中だったことから、多くのサロン・通いの場で年間計画が決定しており、教室の依頼件数が伸び悩んだと推測する。 R7年度は講座メニューを早めに周知するほか、生活支援コーディネーター(SC)を介し、活動内容のマンネリ化等により運営に悩む通いの場・サロン等に対してアプローチすること、対象者に合った講座を実施することで、健康づくりと介護予防を継続的に推進していく。
					令和6年度実績 開催回数 24回 参加者 509名			

委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
ひきつづき、事業周知を図る。	継続して取り組んでまいります。
自立支援のためにも力をいれていくと良いと思います。	継続して取り組んでまいります。
介護予防は現在重要なテーマだと思いますので、このような取り組みは非常に高く評価できると思います。	継続して取り組んでまいります。
評価できると思う。 参加した方からの感想を地域で広めてもらえるとよいのでは。 また、地域の医療機関などにも協力願いたいとはどうか。 市で開催する健康に関係している事業の場で紹介してはどうか。	地域の医療機関や市主催の健康関連事業における周知についても、前向きに検討いたします。
事業の必要性とニーズに課題が見られるものの目標値を達成できており評価できる。	継続して取り組んでまいります。
参加人数が目標値を達成し評価できる。	継続して取り組んでまいります。
事業内容や講座メニューを早めに周知する。	地区の老人クラブや通いの場、サロン等で活動内容に悩んだりした際に活用していただきたい「高齢者教室」となっています。SC(生活支援コーディネーター)や認知症地域支援推進員等を通して、引き続き周知してまいります。
依頼に対して、専門職が対応できたことは参加者にもとても良かったと思います。高く評価できると思います。	継続して取り組んでまいります。
評価できると思う。 高齢者にかかわる専門職や地区の老人クラブの代表者の集まりなどの時に本事業の内容を周知してはどうでしょうか。すでに実施しているかもしれませんが。	ご提案ありがとうございます。 通いの場やサロン等での周知は、SC(生活支援コーディネーター)や認知症地域支援推進員を通して行っています。専門職の派遣できる調整から、現在は老人クラブの代表者全体には周知していません。老人クラブからの依頼もありますが、本事業があることを代表者の集まり等で伝える必要はあると考えます。
出前講座の実施や個別のアプローチ等、アウトリーチによる情報提供がされている。十分評価できる。	継続して取り組んでまいります。
参加延べ人数は目標値を概ね達成し評価できる。	継続して取り組んでまいります。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	② 生活支援体制整備	◎高齢者の様々な生活支援サービスに係るニーズへの対応や、地域課題を解決するため、生活支援コーディネーターや生活支援協議会の活動を通して、生活支援サービス体制の整備を推進する。	◎生活支援サービスの体制整備 第1層コーディネーター1名、第2層コーディネーター2名を配置し、高齢者の生活支援及び介護予防に係るニーズの把握やサービスの創出及びサービスの担い手の養成、地域包括支援センターや市内の関係機関とのネットワーク構築、高齢者のニーズとサービスのマッチングを推進する。	行政機関、生活支援コーディネーター（SC）、地域の関係者からなる2つの協議体を設置し、相互の情報共有及び連携・協働により、不足するサービスの充実や担い手の養成、活動する場の確保など、地域資源の開発に取り組む。	●第1層協議体 訪問型サービス・活動B、桜ささえあいポイント事業等の協議及び、担い手の養成等を行った。 また、男性高齢者の活躍の場の必要性を課題とし、年齢や心身の状況等によって高齢者を分け隔てることなく、誰でも一緒に参加することのできる介護予防活動の地域展開を目指し、男性の料理教室を実施。 令和6年度実績 生活支援協議会：12回 男性の料理教室：5回（参加者18名） 生活支援ボランティア研修講座：1回 生活支援ボランティア団体交流会：2回 生活支援ボランティア団体ヒアリング実施 等	○	地域資源開発については、男性の料理教室を実施する等、第1層・2層協議会協働し、担い手の養成、活動する場の確保、地域資源の開発等に取り組むことができたが、地域の支援ニーズや不足するサービス等の把握は進まなかったため、サービス提供主体の活動等とのマッチングも、取り組めていない部分が多かった。	●第1層協議体 生活支援ボランティア団体のヒアリングにより、サービス提供者の不足や高齢化、提供可能なサービスの内容等に対する困りごとを把握することができたため、課題解決に向けて取り組む。	地域の支援ニーズや不足するサービス等の把握に努めましょう。	
					●第2層協議体 「人と人とのつながりをつくろう」を活動のテーマとし、地域課題、地域に必要なこと等について、情報を共有しながら、地域づくりについての話し合いや活動を実施。 令和6年度実績 地域むすび隊：12回 出張出前講座：5回 研修会参加：4回 福祉まつり参加 ウォーキングイベント実施 等			ボランティア団体の担い手を養成するために研修会や交流会を開催しているが、参加者は少ない。周知活動を徹底するほか、内容がマンネリ化していないか、参加者のニーズ等、事業の改善も含め検討し実施する。男性の料理教室卒業生を、新たな社会資源「料理を通して地域貢献する団体」として活動できるように支援する。	特に意見はありません。評価できると思います。	継続して取り組んでまいります。
					●第2層協議体 地域とつながり、地域づくりを推進するため、様々な分野の社会資源の把握が必要。市内の社会資源を視察したり、実際に利用することで、情報発信する。			男の料理教室を通し、特に地域から孤立しがちな男性の活躍する場を創出できたのは良いことだと思う。今後は、リタイヤした男性が再び活躍できる場、特に教えられる側ではなく教える側とし活躍できる場を作りたいです。 例：パソコン教室、体操教室、子ども食堂男性版、生活困窮家庭に対する家庭教師など	評価できると思う。 課題と対応策も具体的に上げることができるので、継続することが必要だと思う。	継続して取り組んでまいります。
								地域との交流、多様な機関への働きかけ等、支援体制の整備と情報発信ができており、評価できる。		
								地域の社会資源の把握に取り組んでほしい。	継続して社会資源の把握に取り組んでまいります。	

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
①自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	③認知症 施策	◎認知症の方やその家族が、地域のサポートにより安心して生活を送ることができるよう支援体制を整備する。	◎オレンジカフェ(認知症カフェ) 認知症当事者やその家族、地域住民、医療・介護の従事者等が交流を持ち、情報交換やお互いを理解し合う通いの場として、「認知症カフェ」をサポートする。	●オレンジカフェ(認知症カフェ)延べ開設数 令和6年度 5 令和7年度 5 令和8年度 5	市内で毎月開催されているオレンジカフェ(認知症カフェ)へ認知症地域支援推進員が訪問し、運営支援等を実施。 令和6年度実績 延べ開設数 5	◎	目標値を達成しているため	それぞれのカフェで参加者が増えている。認知症カフェ代表者の交流会を継続し、運営方法や悩み、工夫等の意見交換会ができるようにしていく。また認知症地域支援推進員が参加することで、相談や活動継続へ向けた支援を行っていく。	送迎があればもっと活発になるのではないのでしょうか	喜連川地区2カ所(オレンジカフェ歩、オレンジ笑々流)では、送迎付きで開催しています。運営側の人員確保から送迎人数は限られています。現在、市内4カ所全てのオレンジカフェが満員状態で、活発に活動しております。
									ひきつづき支援を継続しましょう。	継続して取り組んでまいります。
									認知症の方が増えているので、支援を強化していくと良いと思います。	継続して取り組んでまいります。
									引き続き周知して、広げるとよいと思う	継続して取り組んでまいります。
									認知症に対する理解と対策は本当に重要なテーマであるとおもいます。これからも継続して頂きたいです。	継続して取り組んでまいります。
									評価できる。 今後も継続して、認知症地域支援推進員が参加することで、カフェの運営がスムーズに行えるようになって頂ければと思います。認知症	認知症カフェが開催される日は、必ず認知症地域支援推進員や専門職が同席し、その場で相談ができるように体制を整えています。運営等もサポートさせていただき、運営側も参加者も楽しく活動できるよう支援してまいります。
									当事者へのアプローチや地域に開かれた事業を展開できており、十分評価できる。	継続して取り組んでまいります。
									継続した活動になるよう支援してほしい。	継続して取り組んでまいります。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について	
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策			
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	③ 認知症 施策	◎認知症の方やその家族が、 地域のサポートにより安心して 生活を送ることができるよう支 援体制を整備する。	◎認知症サポーター養成講座 認知症に対する正しい知識に ついて学び、認知症の方の理 解者となり、地域全体で支えら れるまちづくりを進めるため認 知症サポーター養成講座を実 施する。	●認知症サポーター延べ人数 令和6年度 8,500 令和7年度 9,000 令和8年度 9,500	一般の方に加え、いきいきク ラブ、小学生、市内介護保険事業 所職員を対象に、養成講座を 実施。 令和6年度実績 認知症サポーター延人数 8,414	◎	目標値を概ね達成してい るため	受講者からの評価も良好ですし、ステップ アップ講座に期待したいと思います。			ステップアップ講座は、今年度5回実施予定です。 テーマを「記憶障害」「時間トラブル」「空間トラブル」 「五感トラブル」「注意トラブル」として、具体的な対 応方法等を皆様と一緒に学んでいきたいと考えて おります。 継続して取り組んでまいります。
								学ぶ機会を増やしていくと良いと思います。			ステップアップ講座は、今年度5回実施予定です。 テーマを「記憶障害」「時間トラブル」「空間トラブル」 「五感トラブル」「注意トラブル」として、具体的な対 応方法等を皆様と一緒に学んでいきたいと考えて おります。 継続して取り組んでまいります。
								引き続き、啓発活動が必要だと感じます。			継続して取り組んでまいります。
								認知症に対する理解と対策は本当に重要 なテーマであるとおもいます。これからも継 続して頂きたいです。			継続して取り組んでまいります。
								評価できる 課題と対応策に記載してある通り、認知症 への理解がもっと深まるように「容のステッ プアップ講座」の開催していほしい。			ステップアップ講座は、今年度5回実施予定です。 テーマを「記憶障害」「時間トラブル」「空間トラブル」 「五感トラブル」「注意トラブル」として、具体的な対 応方法等を皆様と一緒に学んでいきたいと考えて おります。 継続して取り組んでまいります。
								普及啓発事業や養成研修を継続してきて おり、十分評価できる。			継続して取り組んでまいります。
								目標値を概ね達成し評価できる。			継続して取り組んでまいります。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
① 自立支援・ 介護予防・ 重度化防止	④ その他	◎災害や感染症への備えを行うとともに、市民の防災意識を高めるため避難訓練や防災訓練を実施する等、災害に強いまちづくりと災害発生時における市民の安全確保のための体制整備を促進する。	◎避難行動要支援者の個別避難計画の作成 75歳以上の高齢者のみの世帯、要介護3以上または重度障がい等の状態にあり、災害発生時に自主避難が困難である方等を登録した避難行動要支援者名簿対象者の個別避難計画策定を推進する。	個別避難計画の作成率をあげるとともに、避難支援を必要とする方たち一人ひとりの状況に合わせた避難計画を作成し、災害時に備える。	●個別避難計画作成数 448件 ●自主防災組織に避難訓練等で個別避難計画活用を依頼	○	自主防災組織(2地区)と連携し個別避難計画活用に向けて自主防災組織と連携することができた。	すべての自主防災組織へ個別避難計画の活用を働きかけ、地域の災害時の要支援者に対する共助意識を高める。	要支援者の把握は大丈夫でしょうか。	要支援者はシステムにより抽出しています。対象者に関係機関への名簿提供の同意と個別避難計画を作成いただくように周知と働きかけを継続して行ってまいります。
									万一に備えて準備をしていくと良いと思います。	継続して個別避難の作成と活用に取り組んでまいります。
									活動の実績が見えていないので、わかりません。	広く個別避難計画について周知するとともに、継続して作成と活用に取り組んでまいります。
									特に意見はありません。評価できると思います。	継続して個別避難の作成と活用に取り組んでまいります。
									評価できると思う。 事業を継続することで、地域の細かい実態の把握や市民一人ひとりが支援者となるという意識を高めることにつながると思う。	地域の防災力を高めていただき、地域のつながりによる防災担当と連携して支援と周知に取り組んでまいります。
									日中に高齢者のみとなる世帯も多いと思われるため高齢者のみの世帯だけでなく広く地域で支えあえるよう引き続き働きかけをお願いします。	地域のつながりを活かした実効性のある個別避難計画とするため、地域(自主防災組織)、福祉専門職、民生委員と連携して取り組んでまいります。
									個別避難計画の作成率を上げるとあるが、今後南海トラフなどの巨大地震が発生すると予測される以上、避難訓練を行うフェーズに入っていると思う。実際の避難訓練を通し新たな課題が出てくる。トライ&エラーを通して、どこに何がどれだけ必要かを具体的に理解しないと、災害時に対応が出来ないと考えます。 特に避難行動要支援者は身体的に不自由な方や認知症の方が多く該当すると思う。それらの方に対する避難支援の際に必要なマンパワー、避難所での専門的なマンパワーの必要数を確認の上確保するままで是非頑張ってくださいと思います。	作成にあたり、避難時の支援者の確保と避難者と支援する人をつなぐことが課題となっています。地域の防災力を高めていただき、地域のつながりを活かした実効性のある個別避難計画となるよう、地域(自主防災組織)、福祉専門職、民生委員と連携して取り組んでまいります。
									今後「共助意識」を高めていただくことが必要であると同時に広く周知・参画を呼び掛けていただきたい。	ご意見のとおり、共助が必須であると思います。地域の防災力を高めていただき、地域のつながりによる共助となるよう防災担当と連携して支援と周知に取り組んでまいります。
									自主防災組織(2地区)と連携し個別避難計画活用に向けて自主防災組織と連携することができ評価できる。	地域のつながりを活かした実効性のある個別避難計画とするため、地域(自主防災組織)、福祉専門職、民生委員と連携して取り組んでまいります。また優先度が高い地域から取り組んでまいります。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について		
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策				
② 介護 給付 適正 化		介護サービスを運営するためには介護サービスが必要とする利用者を適切に認定したうえで、適切なケアマネジメントにより利用者が真に必要なとするサービスを見極め、事業者がルールに従いサービスを適切に提供するよう促す必要がある。	①要介護認定の適正化	認定調査員の資格を持つ職員が、認定調査票の点検を全件実施。加えて、訪問調査を公平公正で客観的かつ正確に行うため、認定調査員研修の参加やe-ラーニングシステムを使用し、必要な知識・技能の修得及び向上に努めるとともに、調査員間の判断基準の解釈の標準化を図る。 【指標】認定調査員による認定調査票点検数(件) 令和6年度 1,700 令和7年度 1,700 令和8年度 1,700	認定調査員の資格を持つ職員が、認定調査票の点検を実施。 件数： 1,505件	◎	提出された調査票の全件点検が実施された。	令和7年度以降も、引き続き研修及び調査票点検を実施し、調査員の資質向上と公平公正な調査の実施及び認定に努める。				
											独居の方は介護者がいないので何とか自分で行わなければならない結果自立に近い評価を受けることがたまにある感じがします。(例1.5時間かけて近所のコンビニにやつと買い物いく方が支援1)介護者がいれば一部介助になるので？	調査上は「自立」と評価される場合であっても、ご提示いただいた例のようなケースについて特記事項に記載するなど、引き続き適正な調査が実施されるよう努めます。
											引き続き公正な調査に努めましょう。	引き続き公正な調査の実施に努めます。
											継続した研修が必要だと思います。	今後も、継続的に研修を実施し、調査員の資質向上を図り、公正な認定に努めます。
											とても高く評価できると思います。	引き続き公正な調査の実施及び認定に努めます。
											評価できる。	引き続き公平公正な調査と認定に努めます。
											認定調査員によっては聞き取りが不十分、実際の動作確認を行わず聞き取りのみ実施するなど、利用者から不満を聞く場面があります。可能な限り動作確認を行い、利用者の"実際"を捉えて欲しいです。 末期がん患者の介護認定に特例を設けて欲しいという家族、ケアマネからの意見があります。末期がん患者の多くは、日常生活を問題なく送ることが出来るケースがありますが、ある日を境に急激に状態が悪化します。状態が悪化してからの区分変更申請では、認定調査前に亡くなる、亡くなってから介護認定が下りるなどの例も多くあります。例えば、末期がんの診断がある場合は、状態に関係なく要介護と認定するなど、のさくら市独自の特例を作ってみてはいかがでしょうか？認定を受け十分なサービスが担保されることで、本人も家族も"最後まで住み慣れた街で安心して生活を送る事が出来る"と考えます。	国で定められた評価方式に反映されない(できない)個別の事情については、「特記事項」に記載することにより審査会で区分判定の判断材料とすることとされています。申請者の状態像の正確な把握のため、丁寧な調査に努めます。
											現場の声を今後も反映していただけるような働きかけをお願いしたい。	引き続き適正な審査が行えるような認定調査の実施に努めます。
									提出された調査票の全件点検が実施され評価できる。	引き続き調査票点検を継続し、公平公正な調査の実施と認定に努めます。		

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
② 介護 給付 適正 化		介護サービスを運営するためには介護サービスを必要とする利用者を適切に認定したうえで、適切なケアマネジメントにより利用者が真に必要とするサービスを見極め、事業者がルールに従いサービスを適切に提供するよう促す必要がある。	②ケアプラン点検 【ケアプラン点検】	市内の事業所を中心にケアプラン「気付き」共有会議等を活用しながらケアプランの点検を実施します。国民健康保険団体連合会の適正化システムを活用して対象者の抽出を行うことにより、より重点的・効率的に実施する。 【指標】ケアプラン点検数(件) 令和6年度 30 令和7年度 30 令和8年度 30	ケアプラン「気付き」共有会議を開催。 開催回数 4回 ケアプラン点検数 8件	○	「気付き」共有会議の定期開催が行えている。	令和7年度以降も、引き続き会議の開催による居宅事業者との連携及び国民健康保険団体連合会のシステムを活用し、適正な給付に努める。	ひきつづき適正な給付に努めましょう。	引き続き適正な給付に努めます。
									介護支援専門員のレベルアップにつながります。	今後もケアプラン「気付き」共有会議を開催し、居宅事業者と連携を図り、適正な給付につなげます。
									定期的に共有会議が実施できているのと、是非継続して頂きたいと思います。	今後もケアプラン「気付き」共有会議を開催し、居宅事業者と連携を図り、適正な給付につなげます。
									評価できると思う。 今後も共有会議の開催を継続することが、事業の目標につながるため。	今後もケアプラン「気付き」共有会議を開催し、居宅事業者と連携を図り、適正な給付につなげます。
									「気付き」の共有会議の在り方に疑問を感じる場合があります。アドバイザーの質の向上が必要に思えます。 アドバイザーの助言が、「利用者に寄り添った計画になっていて良い」という漠然としたものが多く、プランを提出したケアマネに対して会議に出席することがプラスに働いていない気がします。 アドバイザーはよりケアマネジメント技術に対するテクニカルな気付きに基づく助言を行うべきだと考えます。発表者に良い点を気付いてもらうための会議であることは承知しておりますが、必要によっては、修正の必要性や技術の足りなさを伝えることも必要であると思います。保険者によるケアプラン点検である事をもう一度確認していただけたらと考えております。	現在の運営体制は、ケアマネジャーがケアプラン作成にあたり工夫した点など「よさ」を共有することで、ケアマネジャーに自信を持ってケアプラン作成を行ってもらうとともに、多職種による意見交換によりケアプランの質とケアマネジメント技術の向上を目指すものです。 ご指摘のとおり、これまでの会議では「よさ」の共有に主眼を置いてきましたが、一方ではケアマネジャー同士を含む参加者による相互研鑽としての批評的な意見交換が関連でなかった面もあります。 今後は、「評価できる点」と「改善が見込める点」の両方の視点をもった会議の運営について、出席者の要望を踏まえつつ検討してまいります。
									引き続き、「気付き」共有会議の開催をお願いしたい。	引き続き、定期的な会議の開催を継続します。
									「気付き」共有会議の定期開催が行え評価できる。	今後もケアプラン「気付き」共有会議を開催し、居宅事業者と連携を図り、適正な給付につなげます。

第9期介護保険事業計画に記載の内容					R6年度(年度末実績)				委員による評価・意見等	さくら市の今後の取組について
大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己 評価	自己評価の理由	課題と対応策		
② 介護 給付 適正 化		介護サービスを運営するためには介護サービスを必要とする利用者を適切に認定したうえで、適切なケアマネジメントにより利用者が真に必要なとするサービスを見極め、事業者がルールに従いサービスを適切に提供できるよう促す必要がある。	②ケアプラン点検 【住宅改修の点検、福祉用具購入・貸与調査】	住宅改修及び福祉用具購入の事前調査を行い、疑義のある場合は、介護支援専門員や施工業者に確認を行います。国民健康保険団体連合会の適正化システムを活用して対象者の抽出を行うことにより、より重点的・効率的に実施する。 【指標】住宅改修及び福祉用具購入の点検数(件) 令和6年度 230 令和7年度 230 令和8年度 230	事前調査実施件数 福祉用具購入 137件 住宅改修 98件	◎	福祉用具購入・住宅改修の事前調査の全件実施が行えている。	令和7年度以降も、引き続き事前調査の実施及び介護支援専門員等と連携の連携により、適正な給付に努める。	ひきつづき、適正な給付に努めましょう。	引き続き適正な給付に努めます。
									引き続きの連携が必要だと思います。	引き続き、介護支援専門員等との連携を図ります。
									とても高く評価できる試みだと思います。継続していただければ幸いです。	引き続き、事前調査や介護支援専門員等との連携を図り、適正な給付に努めます。
									実施できていると評価できる。	引き続き事前調査及び介護支援専門員等との連携を図り適正な給付に努めます。
									引き続き住宅改修の必要性に疑義がある場合の確認を実施して行ってほしいです。	引き続き事前調査及び介護支援専門員等との連携を図り適正な給付に努めます。
									全件実施できており十分評価できる。	引き続き事前調査及び介護支援専門員等との連携を図り適正な給付に努めます。
② 介護 給付 適正 化		介護サービスを運営するためには介護サービスを必要とする利用者を適切に認定したうえで、適切なケアマネジメントにより利用者が真に必要なとするサービスを見極め、事業者がルールに従いサービスを適切に提供できるよう促す必要がある。	③医療情報との突合・縦覧点検	国民健康保険団体連合会から提供される各種リストを確認し、疑義のある場合、サービス事業所や医療機関に確認を行う。 【指標】医療情報との突合件数(件) 令和6年度 180 令和7年度 180 令和8年度 180	国保連と後期高齢者医療広域連合に委託し、縦覧点検及び突合点検を実施した。 ※例年、7月頃に開催される国保連会議資料により実績を把握しているため、数値記載せず。	○	特にトラブルなく実施できている。	令和7年度以降も委託事業として引き続き実施し、疑義があれば事業所等に確認する。	サ高住を中心に過剰なデイサービスの利用が見られる気がします	利用者が真に必要なとするサービスが適切に提供されるよう、引き続き点検を実施します。
									ひきつづき公正な点検をお願いします。	引き続き公正な点検を実施します。
									引き続きの実施が必要だと思います。	引き続き点検を実施します。
									特に意見はありません。評価できと思います。	引き続き点検を実施します。
									評価できる。	引き続き点検を実施します。
									引き続き、適正な実施の継続をお願いしたい。	引き続き、点検の実施を継続します。
									引き続き継続し実施してほしい。	引き続き点検を実施します。